

～ 北見赤十字病院の様々な取組について ～

<北見赤十字病院中長期運営方針>

1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。
3. 災害（感染症含む）への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います。
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます。
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます。
6. 地域に開かれた病院を目指します。

| 項 目 | 令和2年度の取組み |
|--|---|
| 1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します | |
| 1) 患者本位の医療 | ・患者さんに副用いただくお薬についての説明体制を強化。 月平均実績件数1,127件(昨年度1,086件) |
| 2) 侵襲の少ない医療 | ・内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)について、以下の手術について施設基準届出。産婦人科領域についても、将来的な施設基準届出に向け、医師のトレーニングを開始。 直腸手術についても、実施に向けた検討を開始。 <届け出た施設基準及び手術実施件数> ・膀胱悪性腫瘍手術 10件 ・膀胱悪性腫瘍手術 36件 ・縦隔悪性腫瘍手術 0件 ・縦隔良性腫瘍手術 4件 ・胃切除手術 6件 ・噴門胃切除手術 1件 ・胃全摘手術 0件 (胃は施設基準取得にあたり、医師が経験しなくてはならない件数の実施を含む) ・以下のとおり侵襲の少ない手術を実施。 ・内視鏡手術(消化器) 1,037件 ・腹腔鏡手術 724件 ・胸腔鏡手術 147件 ・内視鏡手術(泌尿器) 384件 ・内視鏡手術(耳鼻咽喉科) 35件 ・関節鏡下手術 68件 ・カテーテル治療(心臓) 249件 ・カテーテル治療(脳) 94件 ・放射線治療(LMRT) 162件 ・放射線治療(SMART) 9件 |
| 3) 質の高いチーム医療 | ・R2.9月 消化器内科のEMRを対象に入退院センターの試行を開始。 R3.1月より消化器内科のESDも対象とした。 外科の最良ヘルニアについても検討を行っている。 <R2年度入退院センター稼働件数> 262件 ・消化器内科 EMR(内視鏡的粘膜切除術) 228件 ・消化器内科 ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術) 34件 |
| 4) 第三者機関による機能評価受審 | R3.1月 特定行為研修指定研修機関認定に向け準備を開始。 |
| 2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。 | |
| 1) がん・脳卒中・急性心筋梗塞・心不全・糖尿病・精神疾患・呼吸器疾患・整形外科的疾患・緩和医療・歯科診療の充実 | ・道立病院単独にて以下の施設基準を届出 R2.4月 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術 R3.1月 両心室ペースメーカー移植術・電池交換術、両室ペースメーカー移植術・電池交換術 ・R2.6月 経皮的冠動脈形成術(ロータブレード) |
| 2) 救急医療・へき地医療・周産期医療・小児医療・精神保健対策(認知症)の充実 | ・救急搬送を積極的に受け入れ、管外の医療過疎地域の患者も受け入れている。 (救急車受入:3,031件) ・ヘリポート利用件数 当院へ 搬送・・・2件 当院より搬送・・・7件 |
| 3) 救命救急センターの安定維持 | ・救命救急センター運営委員会を毎月開催し受入体制を確保している。 ・救命救急センター評価基準充実段階A評価を維持している。 ・救急病棟と救急外来の一体的運営を維持している。 |
| 4) リハビリテーション・健診体制の充実 | ・令和2年度実績 リハビリテーション 111,648単位 健診 9,101件 ・日赤、道立とも休日のリハビリを開始。 |
| 5) 救急ワークステーションとの連携 | ・救命救急士と連絡を密にし、実習を積極的に受け入れている。 (気管挿管講習等 計8名～気管挿管4名、ビデオ硬性挿管4名) ・Drカー稼働件数 14件(当院に直送2件、転院搬送12件) |
| 6) 地域完結型医療の推進・地域の医療施設や介護施設との連携推進 | ・腎臓内科領域において、遠隔診療を実施。 紹介率69.4%、逆紹介率100.2% ・ファーストパス(地域連携予約) 件数 10,752件 ・認知症・緩和ケア・介護等にかかる研修会への講師派遣(2件) ・地域医療機関等への医師等派遣 頭頸部・耳鼻咽喉科 133回 脳神経外科 12回 内科 1回 呼吸器内科(道立) 47回 消化器内科 0回 診療放射線科 17回 リハビリテーション科 7回 看護部 12回 ・当院職員及びオホーツク管内医療機関及び福祉施設職員対象に各種研修会を開催。(新型コロナウイルス感染拡大の影響により院外関係者も対象の研修会等については開催種類及び回数共に前年度と比較して大幅に減少) ・内科系3診療科オープンカンファレンスを5回開催 (累計 院内107名、院外0名参加) |
| 7) 地域への医療サービスの提供 | 新型コロナウイルス感染拡大の影響で下記のとおりスタッフを派遣。 ・2020年8月北見市PCRセンター開設への協力 ・2020年12月宿泊療養施設開設への協力 ・2021年3月北見市ワクチン推進室への協力 ・近隣の障がい者福祉施設、老人ホームへのCOVID-19対応 |
| 3. 災害への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います | |
| 1) 平時の取組・人材育成 | ・R2.10月21日 北海道支部災害訓練(リモート参加・講師) ・R2.10月31日 院内災害対応訓練(COVID-19関連 55名参加) |
| 2) オホーツク圏域災害拠点病院(広域紋別・網走厚生・遠軽厚生・北見赤十字)の相互連携 | ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で訓練が実施されなかった。 |
| 3) DMAT・救護班の出動・展開及び国際活動への参加 | ・近隣の障がい者福祉施設に、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う業務支援として救護班員を派遣(延223名)。 ・国際支援要員の育成は引き続き課題である。 |

| 項 目 | 令和2年度の取組み |
|---|---|
| 4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます | |
| 1) 職場環境の整備・改善 | ・働き方改革の一環として、記念日休暇の取得、院内研修におけるWebやe-Learningの活用などの各種取組を病院として推奨。 ・託児所における対象の拡大について目途が立った。新年度より、小学校低学年の託児及びスポットで利用する特別託児の職種拡大を検討する。その後、産休保育士の復帰を待ち、3歳児以下の通常託児の職種拡大を検討していく。 ・医師の時間外労働時間の削減、職員の有給取得推進は継続課題。 <医師時間外> R1 42:20 R2 34:23 <職員平均有休取得日数> R1 8.9日 R2 13.9日 |
| 2) 職員研修の充実 | ・アメリカニュージャーシー州エリザベス市のトリニタス病院との交流は、新型コロナウイルス拡大の影響で中止となったが、Webによる意見交換会を実施。 第1回→9/30(第2回は4/6) ・各種研修案内及び参加状況の積極的な公表を継続実施。 ・R2.9月 階層別研修を実施。(参加者28名)※WEB開催 ・院外研修等への参加 研修等参加・・・延281人 学会発表・・・延37人 |
| 3) 臨床研修医、専攻医等の育成体制の充実 | ・当院単独採用9名。 ・昭和大学、日赤医療センター、松山日赤より1ヶ月単位での臨床研修医受入(地域枠:昭和10名、医療センター4名、松山日赤2名) ・麻酔科にて御路日赤からの臨床研修医2名、小児科にて旭川日赤からの臨床研修医2名を各1ヶ月間受入 ・当院内科専門研修Pへの専攻医2名採用(消化器内科1名、循環器内科1名)※在籍者3名 ・薬剤師採用なし。 ・薬学部学生への奨学金貸付実施(なし)。 ・看護学生への奨学金貸付実施(看護大、医師会看護学校、札幌大 計100名) |
| 5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます | |
| 1) 健全経営の維持 | ・R2年度は黒字決算となった。 収入の要因については、各種加算の取得や手術件数が増加したことにより診療単価は増加したが患者数の減少が影響し本業の収入は予算に対し減収となった。病院全体の収入は補助金等の確保により増収となった。 支出の要因については、コロナ対応により材料費が増加。人件費は制度改正等により減少。病院の改修費や医療機器の整備により設備関係の費用も伸びた。その他固定費についてはコロナの影響で軒並み減少し予算比マイナスとなった。 |
| 2) ICT(情報通信技術)活用・AI(人工知能)の活用の拡大 | ・電子カルテ更新にむけた検討を開始。道立病院も同一の電子カルテを導入し、1つの電子カルテで両院での運用を行う「2病院対応システム」を導入することとした。 ・RPA(PC等を用いて行っている一連の作業を自動化できるソフトウェアロボット)の活用について検討を開始。 |
| 3) 医療機器の導入 | ・画像管理システム(PACS)更新については、プロポーザルを実施し、メーカーを決定。新型コロナウイルスの影響もあり、R3年度に更新時期がずれ込むこととなった。 |
| 4) 医療安全、感染管理体制の充実 | ・新型コロナウイルスの拡大にあたり、対策本部を設置し、職員一丸となり対応に当たる。 対応陽性患者数:61名 日赤:入院43名 外来1名 道立:入院17名 外来なし ・新型コロナウイルス患者受入にかかるフロー等について、随時見直しを実施。 ・入院患者への面会禁止を継続。 ・新型コロナウイルス患者のホテル療養についてスタッフを派遣。 ・医療安全、感染症にかかる研修会、勉強会開催及び職員参加実績 医療安全関係 11回 延2,117人 感染管理関係 3回 延 193人 ※年2回以上必須研修会参加職員実人数(日赤) 医療安全関係 1,084名(97.2%) 感染管理関係 1,069名(96.2%) (新型コロナウイルスの影響で、2回目の必須研修中止) *e-Learning |
| 5) 北海道立北見病院との一体的な医療提供体制構築 | ・両院手術室の相互利用に向け、看護師を中心とした打合せを継続。 ・道立病院臨床工学技士について、日赤での業務研修を開始。 ・日赤薬剤師による道立病院の休日業務の対応について検討を開始。 ・倫理委員会、栄養委員会について日赤・道立の合同開催を開始。 ・物品や契約の統一・見直し、価格交渉による費用削減 ・診療材料等 約 270万円 ・相互診療応援実績 日赤→道立 82件 道立→日赤 2件 ・相互転院実績 日赤→道立 27件 道立→日赤 12件 ・外来紹介件数 68件 ・外来逆紹介件数 410件 |
| 6. 地域に開かれた病院を目指します | |
| 1) 市民公開講座の実施 | ○市民公開講座は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかったが、出前講座を開設し下記のとおり実施した。 ・R2.12.9 「コミュニケーション・社会人マナー」 対象:北見北中学校2年生120人 ・R3.2.18 「医療情報システムを動かす仕事」 対象:北見工大学生13人 ・R3.3.17 「感染対策 概論・各論」 対象:訓子府福祉会職員等47人 |
| 2) ICT(情報通信技術)・マスコミによる地域住民への医療情報提供や当院の活動の周知 | ・ホームページ及び院内掲示により、中長期運営方針に基づく当院の取組を公表。 ・近隣の障がい者福祉施設における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う業務支援について、天皇・皇后両陛下よりWebによるご視察を受ける。この件については新聞や本社ホームページでも紹介された。 |
| 3) 行政等による協議会への積極参加 | ・以下の会議等へ参加し、行政等との連携を図っている。 ・北網圏域地域医療構想調整会議 ・北網圏域地域医療構想調整会議医療専門部会 ・北網医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会 北見地域多職種連携チーム会議 ・北網医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会 ・北網地域リハビリテーション推進会議 ・北見地域医療供給体制検討会議 ・北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム ・エコチル調査北海道ユニット北見地区運営協議会 ・北見市特別支援教育連携協議会 ・感染症診療協議会 ・感染症協議会結核部会 ・北見市献血協議会 ・北見市子ども総合支援センター「きらり」 発達障害通所児童診察相談業務及びケース会議 ・北見市医療福祉情報連絡協議会 ・認知症疾患医療連携協議会 ・北見保健所管内自殺対策連絡会議自殺未遂地域支援部会 ・北海道ブロック都道府県エイズ治療拠点病院等連絡協議会 ・北海道HIV/AIDS医療者研修会並びに各職種連絡協議会 ・公益財団法人北海道移植医療推進財団主催各種会議 ・北海道がん診療連携協議会 ・斜網地区救急体制検討会 |
| 4) 救急法等の啓発・普及 | ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、講習は全て中止となる。赤十字フェスタも中止となり、年度を通じ、啓発・普及の機会を持てなかった。 |